

# 孔子と王羲之の古里を訪ねて

友の会顧問 山田 敬三



顔真卿墓前

昨春はかつての越の都・紹興に、書聖王羲之が晩年を過ごした「蘭亭」と、今は「魯迅記念館」として公開されている周樹人の故居などを訪ねましたが、この春は王羲之の生家がある

山東省の臨沂および孔子の古里である曲阜へ旅しました。往復ともに北京オリンピックの海上競技場となった青島を経由しましたが、ここはかつてドイツや日本の租界があったため、旧市街にはいまだに当時のクラシックな建造物が残っています。とはいっても、青島市は今や人口700万人を超える大都市で、市内には20階前後のマンションが林立しています。

青島からは高速鉄道(新幹線)で臨沂まで3時間半、春秋戦国時代に魯国の都であった古都で孔子を祀るために作られた孔廟、孔子の嫡子が住居とした孔府、孔子一族の墳墓が十萬基あるといわれる孔林へ足を運びました。これらを一括して「三孔」と呼ばれる、いずれも広大な

施設です。孔林は文化大革命時代に紅衛兵たちが儒教批判のためいったんは掘り返したといわれる場所ですが、今は大勢の中学生や高校生たちが学校から集団で見学を訪れ、古代の貸衣装を身に着けて記念写真を撮っていました。儒教は漢代に国教となり、二千年以上にわたって王朝の精神的な支えとなった教義ですが、20世紀の初めにはやはり徹底的に批判されたことがあります。そのイデオロギーがまた復活しているということについては、複雑な背景があるようです。

最終日には王羲之の生家と、唐代の書家・顔真卿の墓を訪ねました。生家は紹興の蘭亭同様大勢の人々で賑わっていましたが、建物の一角が書法の塾となっていて、そこではたくさんの子供たちが習字に励んでいました。しかし、顔真卿の墓までやって来る日本人は少なく、顔林という地域では行政の責任者である党委員会の書記が案内の先頭に立ってくれました。ちなみに地元の人々と一緒に撮った写真を掲載しておきます。今回も書家の魚住卿山神戸大学名誉教授と小生が旅のガイドを担当しました。来春には西の都長安(西安)に対して、東の都として知られる洛陽を、市のシンボルであるボタンの季節(4月中旬~5月上旬)に訪問したいという希望が出ています。

# 南方熊楠ゆかりの地訪問記 —熊楠と孫文—

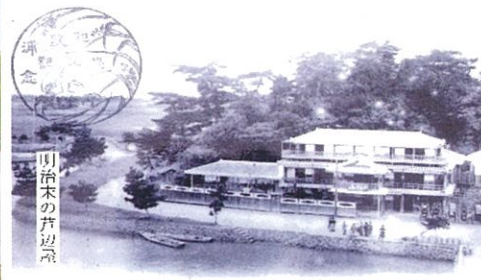
中国文化同好会 橋 雄三



南方熊楠顕彰館



南方熊楠邸



明治末の芹沢宗

ゴールデンウィーク前の一日、紀伊田辺の「南方熊楠邸」と、隣接する「南方熊楠顕彰館」、そして、熊楠・孫文再会の地、和歌の浦へ行ってきました。このことに関連し報告いたします。

南方熊楠(みなかた・くまぐす 1867~1941)は和歌山城下に金物商の二男として生まれました。中学卒業後、上京し、やがて、東京大学予備門に入学しますが、学業そっちのけで遺跡発掘や菌類の標本採集に明け暮れます。中途退学し、帰郷。1886年暮、渡米。

広辞苑には、「民俗学者・博物学者。南北アメリカに遊学、1892年渡英、大英博物館東洋調査部員。粘菌を研究し、諸外国語・民俗学・考古学に精通」と記述されています。熊楠は生涯、生業を持たず、したいことだけをしてきた人です。14年に及ぶ米・英遊学の費用、死ぬまでの25年間住んだ紀伊田辺の居宅購入資金等々、全て親兄弟持ちでした。金物商を営んでいた父親は商才があったようで、蓄財し、やがて酒造業を興し成功させています。父の死後、熊楠の弟が家業を継ぎ、代を重ね、今

も(株)世界一統という社名で健在です。ここで、大吟醸「熊楠」を味わうのも一興でしょう。

ところで、熊楠と孫文(1866~1925)の軌跡は1897年、ロンドンで交わります。孫文は1895年の広州蜂起失敗のあと、清国政府から懸賞金がかげられ、日本を経て米・英に亡命しますが、1896年、ロンドンで清国公使館に捕えられます。香港の医科大学時代の恩師、カントリー博士の助力で救われたあと、少なくとも68回、大英博物館に通ったといわれておりますが、ここで、熊楠と出会います。そして4年後、二人は和歌の浦の「芦辺屋(阿しべや)」で再会します。今は跡地に案内板があるだけですが、孫文の旅の疲れを癒したであろう景観はそのまです。

二人の出会い、並びに再会の詳細については、2006年、孫文記念館で開催された特別展「孫文と南方熊楠—海外にて知音と逢う—」の図録を参照ください。

秋には、友の会行事、「南方熊楠記念館・顕彰館見学バスツアー」が実施されると聞いております。私の報告が予備知識となれば幸いです。

# 総会特別講演会 6月17日(日)孫文記念館 46名 / 総会懇親会 海彩園 37名

企画運営委員長 後藤 みなみ 記



講師:多木 和重さん

兵庫県政150周年記念の年にちなんで、(公財)兵庫県国際交流協会多木和重副理事長をお招きし「兵庫県政150年と国際交流」と題して講演いただきました。

まず、歴代の県庁舎や初期の県知事についてのお話のあと、兵庫県の成り立ちとして、兵庫県が気候や風土、文化が違う旧五カ国もの地域によって形成された、他府県に見られない特殊な県であること、開港地を擁することで早くから海外に門戸を開き、開港とともに多くの外国人が移り住み、産業が興ったことなど、兵庫県の特色を大変詳しくお話いただきました。また、神戸港にまつわるトルコ・ロシアなどの外国との関わりのエピソードも披露いただき、神戸と孫文の話、アインシュタインのノーベル賞受賞の報は神戸行きの中だったという話もありました。

また、兵庫県の国際交流については、姉妹都市提携のいきさつ、提携先以外を含む国際関連プロジェクトなどにふれながら事例をあげてわかりやすく紹介いただきました。そして、兵庫県の国際交流施策は戦後徐々に進み、日本の経済力がついて地方の時代と言われた70年代終わりから80年代にかけて大きく進展したこと、阪神大震災を契機に、外国人県民との共生意識が高まったことで多文化共生施策が進んだという話は印象的でした。

兵庫県に住む外国人の変遷については、1990年代は韓国朝鮮人が77%で中国台湾人を含めたら90%を占め

ていたが、多国籍化が進み、今ではこれらの比率が全体の3分の2程度となっていること、この10年間は約10万人で推移しているが、特別永住者の減少等で韓国籍が減り、リーマンショックによりブラジル人が25%減少した一方で、ベトナム人が3倍増、ネパール人は6倍増となり、構成が様変わりしつつあることに触れられました。ちなみに日本全体ではこの10年間に24%増で、兵庫県は外国人の人口は全国7位だが、人口比率では15~16位になるそうです。

多木副理事長は、兵庫県の国際化の現状に触れるとともに、異なる旧五国の文化が共生してきた兵庫県は、外国との交流や多文化共生社会づくりにも馴染みやすく、今後こうした課題にしっかりと取り組んでいかなければならないと語られました。

最後に、兵庫県国際交流協会の取り組みの紹介として、兵庫県政150周年記念事業の紹介がありました。一つは、11月11日(日)に神戸中華同文学校にて開催される「多文化共生のつどい」で、実行委員長が愛新翼孫文記念館館長であることにふれつつ、是非ご参加くださいと呼びかけられました。そして、もう一つは、外国人コミュニティの形成などを紹介する多文化共生の記録誌で、来年にも発行する予定とのことでした。



総会終了後はTio舞子の海彩園にて懇親会を開催し、40名が参加しました。自己紹介や近況報告、余興では詩吟、シャンソンの披露があり、会員間の親睦を深めることができました。

# 2018新春特別講演会 1月21日(日) 孫文記念館 45名

大阪日台交流協会野口 一会長をお招きして『夜空に輝く星座の如く~孫文から明治維新』と題して新春特別講演会を開催しました。

はじめに、維新の魁 天誅組から、嵯峨浩さん(満州国皇帝愛新覺羅溥儀の実弟溥傑夫人)、実子の慧生、婿生さんなどのことに触れられ、孫中山の謂われなどを話されました。

続いて、南方熊楠と孫文の関係、そして、客家人の歴史にも言及しました。リクエンシンガポール首相と台湾元総統李登輝の秘話。最後に、袁世凱暗殺を計画した杜聡明博士やサリン事件を解決されたご子息の杜祖健博士などについて、講演していただきました。

# 2018新春のつどい「講演と食文化交流」2月12日(日) 東栄酒家 47名

企画運営副委員長 齋木 賢一 記



講師:加藤 隆久さん

2月12日神戸南京町の東栄酒家3階において、「2018新春のつどい」が開催された。例年を上回る47名の出席で円卓5台の会場は満席となった。

最初に林同福会長から「中国には2回の正月がある。今日は春節祭の行われる旧暦の新年を共に健祥で祝おう」と挨拶の後、生田神社名誉宮司の加藤隆久氏から「陳舜臣が信仰した神社」と題する講演があった。

加藤氏は講演で、陳舜臣氏は、子供の頃から神戸に住み、生田の森でよく遊んでいた。その生田の森も神戸大空襲で焼かれたが、戦後すぐに蘇って喜んで話を話された。また貿易商社員として神戸で働いていたが、書いた小説で江戸川乱歩賞を取ったので勤めをやめて小説家として身を立てたこと、関帝廟と並び諏訪山神社も中国人の信仰を集めていることなども話され、講演の中で陳舜臣氏の書かれた新聞記事や神戸を詠んだ漢詩の掛け軸などを資料として出してくださり、大いに説得力のある面白い内容であった。

山田敬三顧問による乾杯の発声で昼食と歓談に移ると、漢詩の朗誦や詩吟やドイツ語での独唱など数々の余興が披露され、張先生率いる美しいコーラスの声にみんな引き込まれた。河合純子副会長の挨拶で締めくくられ、永い友情を誓いあい、最後に記念撮影をして散会となった。